

G3京成杯

<最終見解>

年明けの重賞では「ロベルト+サンデー」の血統馬も目立ちました。
この傾向は年末年始の中山芝恒例の傾向。

中山金杯の勝ち馬リカンカブールの父シルバーステートはサンデーサイレンスとロベルトを持つ種牡馬。
3着マイネルクリソールもサンデーとロベルトを持つ馬。
フェアリーSの勝ち馬イフェイオンもサンデーとロベルトを持つ馬。

ジュンゴールドの父はロベルト系のエピファネイア。
母父はゼンノロブロイ。母母父レインボーコーナーは欧州型ナスルーラ系。

フェアリーS を勝ったイフェイオンも父エピファネイア。
母父ゼンノロブロイ。母母父欧州型ナスルーラ系種牡馬(ケンドール)

相手もロベルト持ちのハヤテノフクノスケとダノンデサイル。

ドゥレイクパセージは上昇怖いドゥラメンテ産駒。

G2日経新春杯

<最終見解>

京都の芝は主流の末脚スピードを安定して発揮できない馬場。

加えて、現4歳世代は春の重賞が低レベル。春から重賞を走っていた4歳の差し馬は、全滅とまでは言わないものの、まったく信用できません。

本命はブローザホーン。

父エピファネイア。

岡田スタッド育成の欧州型の先行馬はタイトルホルダーと同じ。

今の馬場向きの血統。